

「第2回 自治体 Pitch」

～Pitch to Local Governments～について



令和元年 9月

内閣官房 情報通信技術(IT)総合戦略室

第2回 自治体ピッチ～Pitch to Local Governments～について

概要

- 自治体ピッチを実施するに当たって、「ピッチ（プレゼンテーション）」のイメージを共有するため、共通するテーマを設定せずに、既に地方自治体が共同利用しているシステム等又は共同利用を前提に開発しているシステム等を提案するピッチ（プレゼンテーション）＆フィードバックを開催する。

①ピッチ（プレゼンテーション）当日

◆ 日 時：2019年9月26日（木）13:00～17:15（12:30開場）

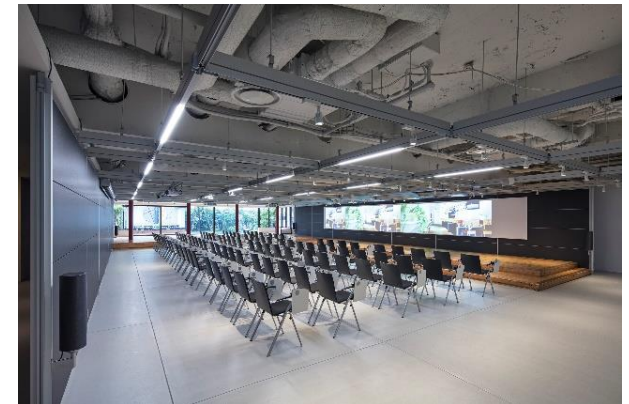
※3部構成で、1部につき3開発者等がピッチ（プレゼンテーション）

※1開発者等につき20分（10分提案、10分質疑応答）

※各部の終了後に開発者等と個別に面談できる時間を設ける。（各部約20分）

◆ 場 所：東京ユビキタス協創広場CANVAS 2階
（東京都中央区新川2-4-7）

◆ 当日の様子は生中継で配信



②フィードバック期間

◆ 日 時：2019年9月27日（金）～2019年10月4日（金）17:00

◆ 方 法：YouTubeにて当日の録画動画を配信

◆ アプリケーション「Sli.do」を利用し、地方自治体からの質問・意見を受付

会場図

個別面談

プレゼン終了後に会場に來場している地方自治体とピッチ参加の開発者等の個別面談を実施します。個別面談は、自治体参加者がプレゼン内容について関心がある場合等に参加し、参加は自由となっています。時間は、各部約20分です。

プレゼンテーション

プレゼンテーションの持ち時間は20分です。

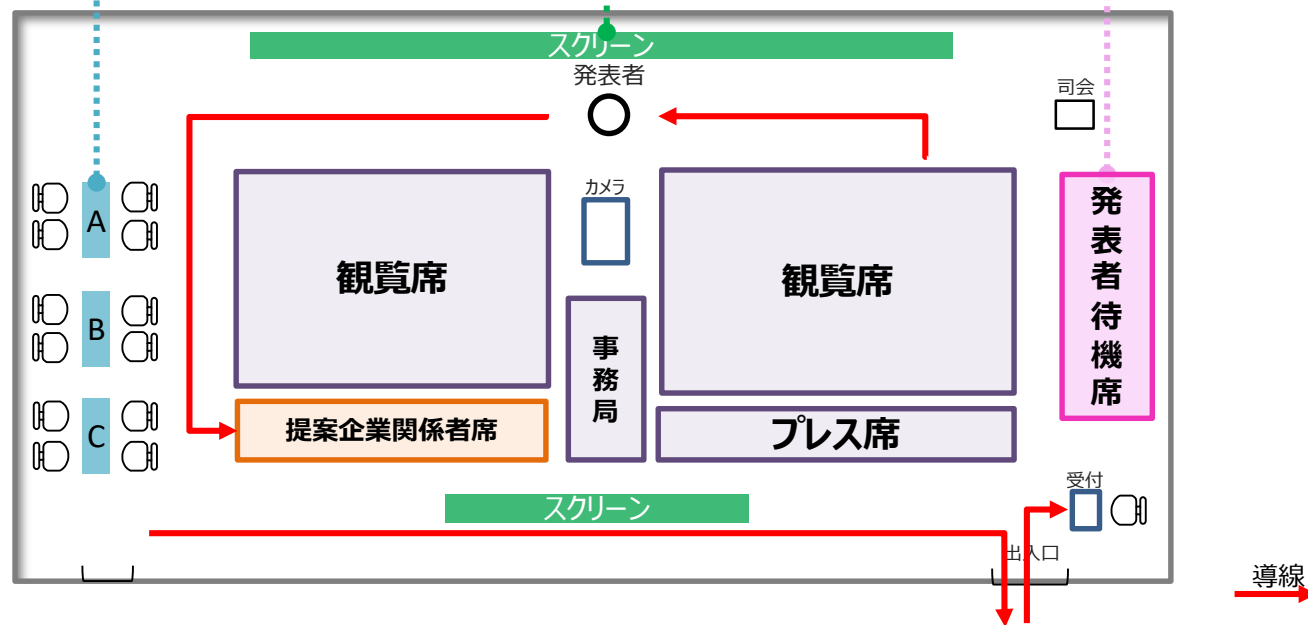
- ▶ プレゼンテーション（10分）
- ▶ 質疑応答（10分）

プレゼンテーション実施者待機場所

プレゼンテーション実施者の待機場所です。各部開始の5分前までに到着してください。

- ▶ 第1部 13:05～14:05
- ▶ 第2部 14:25～15:25
- ▶ 第3部 15:45～16:45

会場図



個別面談スケジュール

14:05～14:25

ブースA
〇〇会社：「XXXXXXXアプリについて」
ブースB
△△会社：「XXXXXXXシステムについて」
ブースC
□□会社：「XXXXXXXサービスについて」

15:25～15:45

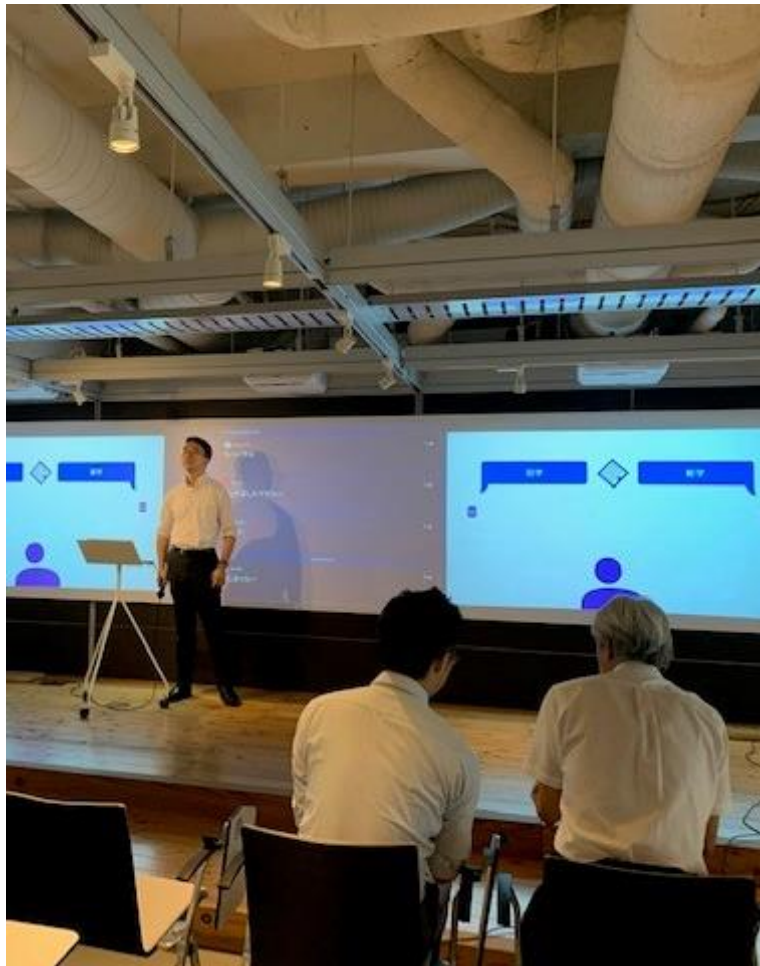
ブースA
〇〇会社：「XXXXXXXアプリについて」
ブースB
△△会社：「XXXXXXXシステムについて」
ブースC
□□会社：「XXXXXXXサービスについて」

16:55～17:15

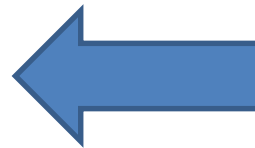
ブースA
〇〇会社：「XXXXXXXアプリについて」
ブースB
△△会社：「XXXXXXXシステムについて」
ブースC
□□会社：「XXXXXXXサービスについて」

ピッチ当日におけるSli.do 利用イメージ

当日のピッチ（プレゼンテーション）を生中継で配信。
地方自治体職員は、会場又は生中継を視聴し、随時質問・コメントをSli.doを使って入力。
開発者からリアルタイムで回答があることも。

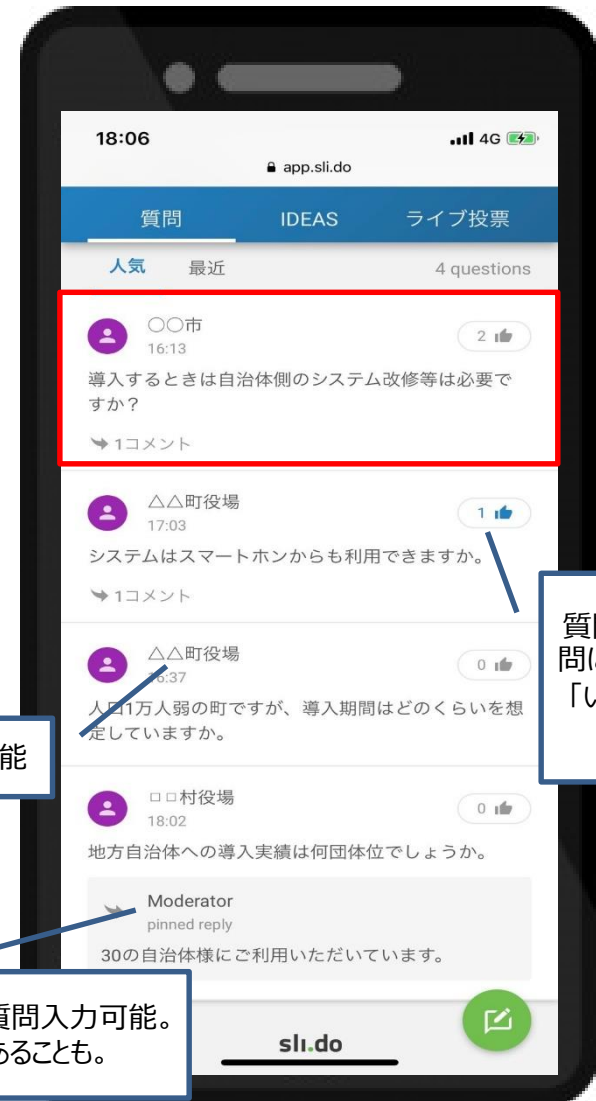


評価の高い質問を
司会が代理質問



匿名でも質問可能

動画アーカイブ公開期間中は質問入力可能。
後日、開発者からの回答あることも。

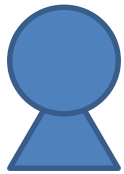


質問入力に加え、質問に「いいね」が可能。
「いいね」が多い程、上位に表示

フィードバック期間におけるSli.do利用イメージ

フィードバック期間中（9月5日～9月13日 18:00迄）、ピッチ当日に撮影した動画を配信。
動画を視聴する地方自治体職員は、Sli.doを使って質問・コメント。
Sli.doに投稿された質問・コメントに対し、開発者は回答を行う。

【地方自治体】



①動画を視聴（Youtubeを想定）



Sli.doを使って

②質問・コメント



【開発者(ベンダー等)】



Sli.doを使って ③回答



参 考

(参考) 自治体ピッチ～Pitch to Local Governments～開催の背景

1. 「地方自治体のデジタル化」が急務

○地方自治体は、今後とも、生産年齢人口の減少による労働力の供給制約に面することを踏まえれば、Society5.0において進化が加速する技術を積極的に活用して、質が高く、持続可能な行政サービスを提供する必要性が迫られているのではないかな。

2. 優良な取組みの横展開（システム等の共同利用の推進）の必要性

- 現在、地方自治体は、それぞれが問題意識をもってデジタル化の取組みを進めているが、それぞれの地方自治体が個々に、それぞれの分野において取組みを進めていても、デジタル化の取組みは全国的に広がらないのではないかな。
- また、実証事業や補助事業によってデジタル化の取組みをしている場合には、事業期間中は経費をかけずに導入できる一方、仮に優良な取組であっても、その後の運用の仕組みがないために、事業期間満了に伴い終了してしまう現状もあるのではないかな。

3. 利用者視点に基づくサービスデザイン思考の重要性

- 行政サービスにおいてデジタル技術を活用する場合には、単に新しい技術を導入するだけでは、有用なシステム等を構築することができないことから、事務を知っている職員と技術を持っている開発者（ベンダー等）が共に利用者視点を持ち、サービスをデザインすることが重要ではないかな。



※引越ワンストップ・サービスデザインワークショップの様子

自治体ピッチ ～Pitch to Local Governments～の開催

- 自治体ピッチとは、設計段階から、地方自治体職員と開発者（ベンダー等）が利用者視点に立ったサービスデザイン思考の下、対話を重ねながら、地方自治体が共同利用することを前提として開発したシステムやアプリケーション等を、開発者(ベンダー等)が複数の地方自治体に対して提案する場のことを指す。

※Pitch（ピッチ）とは、新しいアイデアやビジネスを端的にプレゼンテーションする意味で用いられる言葉。シリコンバレーで投資家へのプレゼンを「ピッチ」と呼び、様々なピッチイベントが行われている。

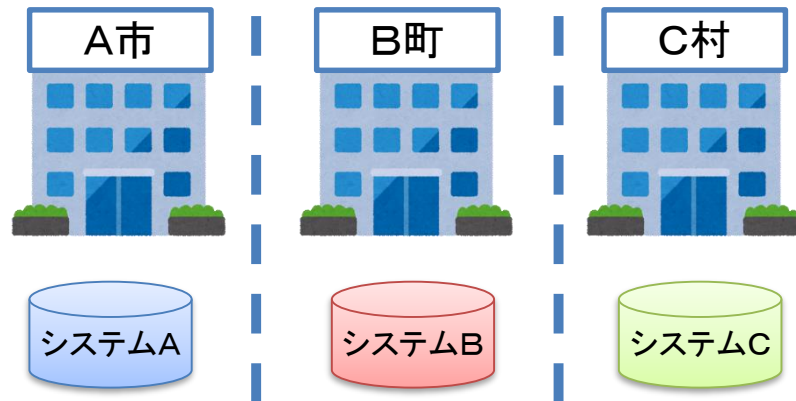
(参考) 自治体ピッチ～Pitch to Local Governments～とは

概要

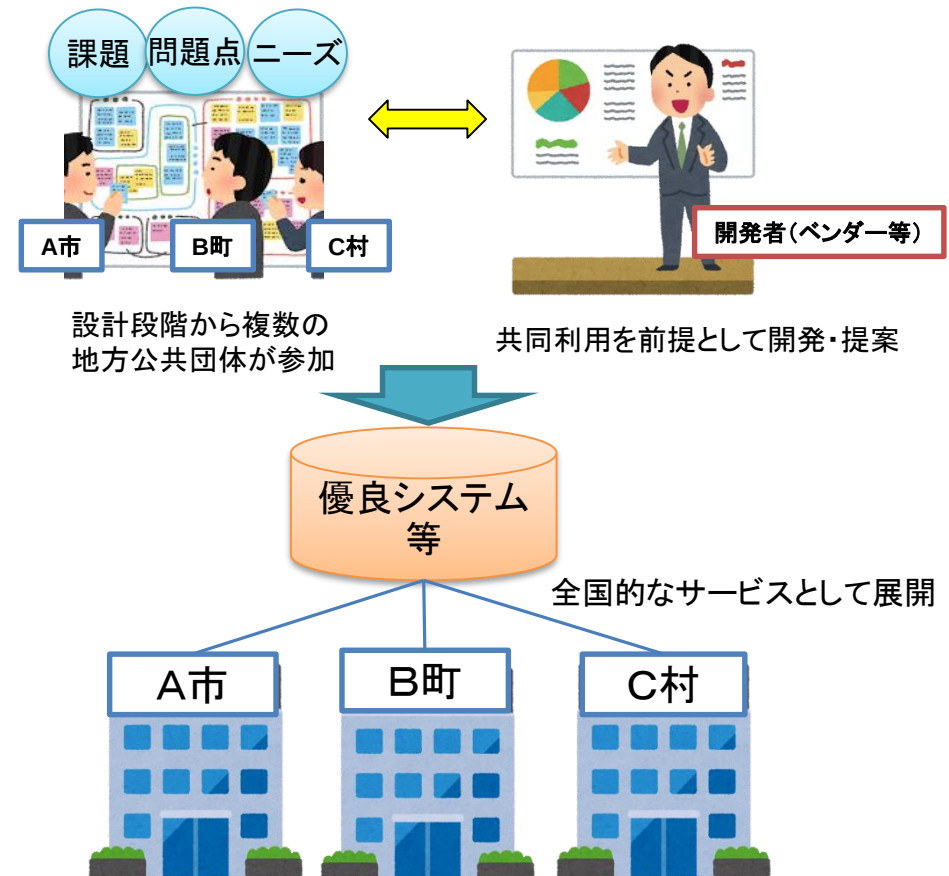
- 自治体ピッチとは、設計段階から、地方自治体職員と開発者（ベンダー等）が利用者視点に立ったサービスデザイン思考の下、対話を重ねながら、地方自治体が共同利用することを前提として開発したシステムやアプリケーション等を、開発者（ベンダー等）が複数の地方自治体に対して提案する場のことを指す。

【現状】

個別にバラバラに展開



【目指す姿】



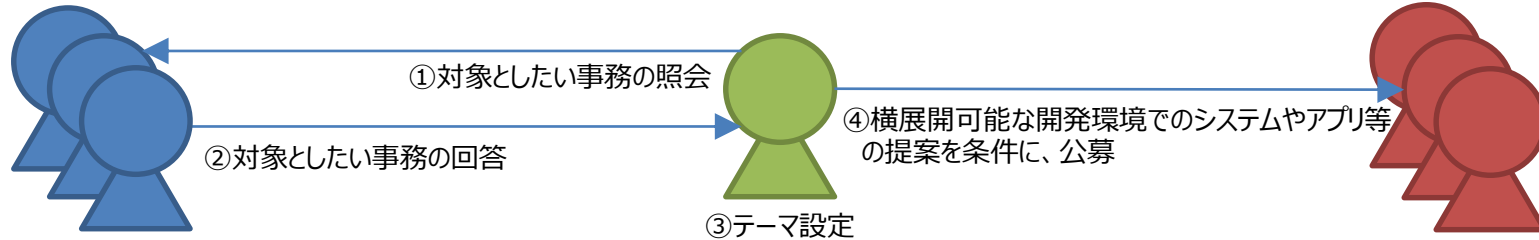
(参考) 自治体 Pitch ～Pitch to Local Governments～のプロセス

【地方自治体】

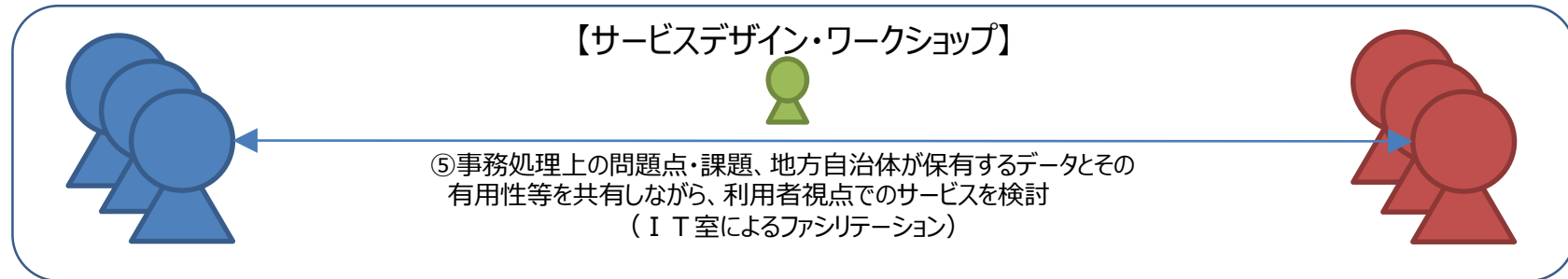
【IT室】

【開発者(ベンダー等)】

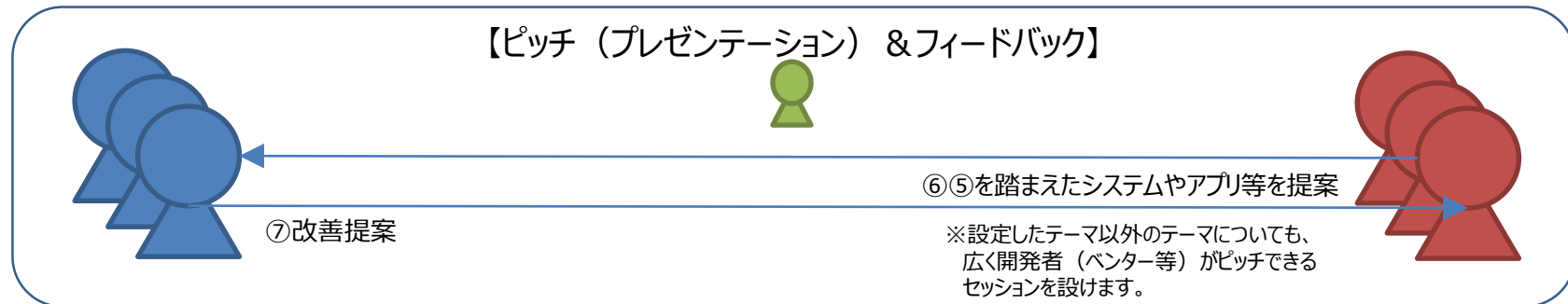
STEP1



STEP2



STEP3



STEP4

